科目区分　教科専門
授業科目名　倫理学Ⅰ（１回生対象：学校教育 20 名、２回生２名、研究科１名）

# 「学びの共同体」の構築に向けて

社会科教育講座　倫理学・哲学　寿　卓三

## Ⅰ　授業評価（５段階：ａ良い～ｅ悪い）

⑴　授業アンケートから

問１　この授業に積極的に参加したか。
　ａ5　ｂ８　ｃ10　ｄ０　ｅ０

問２　学びの意欲を喚起したか。
　ａ6　ｂ7　ｃ10　ｄ０　ｅ０

問３　この講義のテーマ・目的は明確か。
　ａ7　ｂ6　ｃ10　ｄ０　ｅ０

問４　学生同士の話し合いの意義
　ａ15　ｂ6　ｃ2　ｄ０　ｅ０

問５　学生の発言への寿の対応
　ａ8　ｂ8　ｃ7　ｄ０　ｅ０

問６　３つの教材選択の妥当性
　ａ10　ｂ8　ｃ5　ｄ０　e0

問７　授業のレベル
　ａ4　ｂ13　ｃ6　ｄ０　ｅ０

問８　この講義で得るものはあったか。
　ａ9　ｂ7　ｃ7　ｄ０　ｅ０

問９　この講義のおすすめ度
　ａ8　ｂ9　ｃ6　ｄ０　ｅ０

問１０　良かった点、改善すべき点

〈良かった点〉
・話し合いの時間
・講義の感想がレジュメに掲載され、考えが連続し、深まること

〈改善すべき点〉
・自分たちで話す時間が長くて他の班の意見を聞いたり、お互いに深めたりする時間が短くなり、消化不良になることがある。
・話し合う内容が明確でない。

⑵　レポートの抜粋

講義は､｢夕焼け｣（吉野弘）｢ある男子生徒の日記｣（アシスト：高橋大助）｢100 万回生きたねこ｣（佐野洋子）という 3 つの題材を提供して､学生で議論し､コメントを提出し、さらに深めていくという展開であり、教員の役割は、素材の提供と問題の整理である。今年度からは、新課程の学生がいなくなり、全員が教員養成課程になったわけであるが、昨年までと同じ形式で行った。学生の反応に基本的な相違はなかったという印象である。

レポートは各自で自由にテーマを設定して論述するという形式であり、それぞれが固有な視点から論じているが、少なからぬ学生の記述に「学びの共同体」の成立をうかがわせる論述が見られたと考えている。

①　今回の講義で初めて｢倫理｣を学習した。倫理を習って感じたことは｢倫理は奥が深い｣ということである。普段当たり前のことを深く考え、追及していくことは難しかった。しかし、深く考えを掘り下げていくことで、新しく生まれる思考や気づきがあった。人間にとって考えることがどれだけ重要なことなのかを身をもって知った。

②　先生は話し合う機会をたくさん与えてくれました。それは、班に自由な時間を与えていたということです。話し合いに参加せずグダグダと時間を使うこともできたということです。対極的に積極的に話し合いに参加し意見を言うこともできます。つまり、学生の主体性によって授業の質は大きく変わってしまうということです。(中略)そのためにはこれからあげる 2 つのことをすることが大切だと考えています。1 つ目は授業を受けるときは前の席に座るということです。前に座れば、板書やスライドがよく見え、先生の声も聞きやすいからです。それだけではなく、先生に顔を覚えられるためコミュニケーションがとりやすく、後ろの生徒も見えないため授業に集中できます。こうして主体的に取り組むことができます。2 つ目は話し合いの時に軸となることです。軸になれば、自分の思うように話し合いを展開できるだけでなく、話し合いに参加できていない学生に話を振り、考えを聞くことができます。また、コミュニケーション能力の向上やリーダーシップを鍛えることにもつながります。この 2 つのことを意識して主体的に取り組んでいきたいです。

## Ⅲ　講義の総括

①講義と話し合いのバランスの調整、②議論の質の高まり､深化を学生が実感できるような論点整理と問題の明確化が依然として残された課題である。愛媛という地域との関連性はこの講義では特に意識しなかった。